

## 式 辞

木々の蕾もほころび始め、ここ椿が丘にも春の息吹が感じられるこの佳き日に、多数のご来賓の方々、保護者の皆様をお迎えして、島根県立浜田商業高等学校第五十七回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりましても、大きな喜びでございます。本日、ご臨席を賜りました皆様方には、日頃から本校の教育に深いご理解と温かいご支援をいただき、さらには巣立ちゆく卒業生の門出に華を添えていただきましたことに、心からお礼を申し上げます。

保護者の皆様方におかれましては、今日のお子様の成長された姿に感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、心よりお慶びを申し上げますとともに、これまで本校にお寄せいただいたご支援とご協力に深く感謝を申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました商業科二十六名、情報処理科三十三名の皆さん、卒業おめでとうでございます。本校の所定の教育課程を無事終了し、めでたく卒業の日を迎えることができましたことは、一人ひとりが三年間、たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であることは言うまでもありません。その努力に対し、心から拍手を送ります。皆さんはこの三年間、学習や学校行事、生徒会活動、部活動に全力で取り組み、級友や仲間たちとの友情を育み、充実した高校生活を過ごしてきました。後輩たちの良き手本となり、大きな成果を残してくれました。振り返って見れば、決して平坦な道ばかりではなく、つまずいたり悩んだりしたこともあったかと思いますが、その一つひとつが貴重な体験として、これからの人生の糧となることでしょう。これからは「高校時代」というステージから、次のステージへと歩を進めて行きます。大学や専門学校へ進学し、より専門的な勉強をする人、就職して社会人となり、経済的にも、精神的にも自立する人、道は様々ですが、未知の世界に対する不安と緊張感、そして自分で道を切り開いていくという高揚感とに包まれていることでしょう。

さて、正月早々、能登半島地震や航空機事故があり、多くの方が亡くなられました。亡くなられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を切に願います。平穏に暮らせることは実は当たり前ではないと私たちは気づかされました。学校に来て授業を受けることができ、部活動に打ち込めるというのは何と有難いことでしょう。

現代社会は人工知能を中心とする Society5.0 社会に向けて、今まで経験したことのない速さで変化し続けております。加えてこの島根県西部域では、人口減少による問題が深刻化してきております。このような課題を解決できる人材は、本校の教育目標である「未来を切り拓く志を抱き、心身ともに健康で、豊かな心と高い知性をもった」皆さんのような若人たちです。そこで、卒業にあたり皆さんに三つのことをお願いします。

その一つは、「志をもって生きてほしい」ということです。浜商校歌 2 番には「われらここに 劫初より 造り営む 殿堂に 共に黄金の いざ 釘ひとつ 打ちて残さん」とあります。これは歌人、与謝野晶子の歌からの引用で、意味は「世の初めから人類が営々として築きあげてきた文化的殿堂があるとすれば、自分も釘一本なりとそれに打ち込み、その営みにあずかりたい、しかし、それは錆びた釘ではなく、黄金の釘でありたい」という意味です。人がこの世にうまれたかぎりには、何か自分の存在を残したい、自分は無用の存在でなく、自分の人生は自分なりに意義があったと振り返りたい。そんな心境が込められています。本日、皆さんがこうして無事に卒業の日を迎えられるのは、常に変わらぬ愛情を注ぎ、励ましてこられたご家族の方々や、ある時は厳しく、またある時は温かく指導

された先生方、そして地域の方々の温かいご支援があったからこそです。これらの方々への感謝の気持ちを忘れずに、将来は自立した社会人となって、たとえ小さなことでも、一人ひとりが自分にできる「黄金の釘」を打つことで地域を支え、地域に貢献できる人材となって下さい。

二つ目は、「温かい思いやりの心をもつ豊かな人間性を備えた人になってほしい」ということです。人は一人では生きてはいけません。様々な人間関係の中で生きています。人への思いやりは、他の人を幸せにするだけでなく、自らも幸せにします。いつも皆さんのことを気にかけて、幸せを願っている人がいるということを忘れないで下さい。「誰もが、誰かの、たからもの」なのです。幸せを手に入れるのではなく、幸せを感じる心を手に入れてください。

三つ目は、「最後まで諦めずに粘り抜く人になってほしい」ということです。皆さんは玄関前庭の音部石を見たことがありますか。音部石は約二億年前、火山の大噴火によってできた火成岩です。三隅町上古和の音部山にあったものが大洪水の山崩れで三隅川に落ち、何千年何百年と水に洗われ、川を流される間に軟質な部分は水に溶け、でこぼこの奇岩となったと言われています。そしてそれが雨に打たれれば青く、あるいは白く、見る場所によってその色は変化するため、庭園を愛する人の心を惹きつける銘石となりました。現在はダム湖に沈み新たな産出は難しく文化財指定を受けて保護されています。その貴重な石を開校当時、三隅町長が学校の要請に応じて快く寄贈してくださいました。皆さんも、長年の浸食により銘石となった音部石を見習い、道半ばで諦めることなく努力し続けるならば、音部石のように貴い存在となることでしょう。以上三つのことを皆さんにお願いします。

卒業はあくまで新たな出発です。これから先の道は未知のものであり、困難な時期もあるかもしれません。人生で問題にぶつかった時は、それは壁ではなく扉だと思えばよいでしょう。自分自身を信じ、努力し続ければ、扉は開き、必ずや志を達成することができるでしょう。

さあ、勇気を出して一歩前に踏み出して下さい。皆さんには無限の可能性があります。自分を信じ、自分の可能性に賭ける勇気と決断が、これからの人生を切り開いていくのです。しっかりと前を見据えて、自分の選んだ道を堂々と歩いて行って下さい。皆さんの今後に幸多からんことを願い、式辞といたします。

令和6年3月1日

島根県立浜田商業高等学校長 平野 謙二